

2022年度東京慈恵会科大学大学間共同プロジェクト研究費成果概要

報告日 2023 年 4月 14日

部署名	肝胆膵外科
研究代表者 氏名	池上 徹

1. 共同研究テーマ名	低侵襲新規外科治療の導入
2. 共同研究の連携先機関名	鹿児島大学

研究成果の概要	
<p>目的：近年比較的侵襲が大きい膵頭十二指腸切除術（PD）においても低侵襲新規外科治療として腹腔鏡下PDが可能となった。ロボット支援下PDも保険適応となったが、これらの手術成績については未だ明らかでない。またときに重症化するPD術後膵液瘻に伴う腹腔内出血に対する効果的な膵-消化管縫合の開発が急務である。今回これまで我々が開発してきた新たな吻合法であるシート付き自動縫合器による膵切離と膵-胃吻合を組み合わせた新規膵胃吻合法で行った腹腔鏡下PD、ロボット支援下PD症例について検討することを目的とした。</p> <p>方法：以前よりPDにおいて膵-胃吻合を積極的に行ってきた鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科消化器・乳腺甲状腺外科学講座との共同研究として考案したシート付きステープラーで膵切離を行う膵-胃吻合術を腹腔鏡下PD、ロボット支援下PDの際に導入し、その短期・長期成績について検討した。手技統一のため鹿児島大学大塚隆生教授も手術に参加し共同で手術を行った。プライマリーエンドポイントは膵液瘻を含む術後合併症発症率、セカンダリーエンドポイントは腹腔鏡下手術完遂率、術中出血量、手術時間、入院期間とした。</p> <p>結果：本研究開始後これまでに11例の腹腔鏡下PD、2例のロボット支援下PDをシート付き膵-胃吻合で行った。今回導入した腹腔鏡下/ロボット支援下PD（膵-胃吻合）と本吻合法導入以前の開腹PD（膵-空腸吻合）（従来法）109例との比較では年齢、性別、膵硬度、手術時間に有意差を認めなかった。膵液瘻、出血性腹腔内合併症の発症についても両術式に有意差はなかったものの、膵液瘻は30.8% vs. 17.4% (p = 0.245)、出血性腹腔内合併症0% vs. 7.3% (p = 0.312)であった。出血量 (g、240 vs. 480、p <0.01)、術後入院期間 (日、17 vs. 26、p <0.01) についてはいずれも腹腔鏡下/ロボット支援下PD（膵-胃吻合）で有意に減少していた。</p> <p>以上から腹腔鏡下/ロボット支援下PDにおけるシート付き膵-胃吻合は出血量、術後入院日数の短縮寄与しており、膵液瘻発生は高い傾向があったものの出血性腹腔内合併症は減少しており、低侵襲新規外科治療として安全に導入可能であった。</p>	
今後の展望、成果発表の計画について	
<p>今回の研究で腹腔鏡下PDにおける安全な膵-消化管吻合導入のために鹿児島大学との共同研究を行い、上記のような成果を得ることができた。しかし症例数は未だ13例と少ないため今後も症例を蓄積しさらなる検討が必要と考えられる。また今回の研究成果については2023年6月の第48回日本外科系連合学会学術集会（横浜）、7月の日本消化器外科学会総会（函館）で報告する予定で、今後今回の成果については論文化しての発表を計画している。</p>	